

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：12501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24730412

研究課題名(和文)中古車貿易における移民企業家の多民族ネットワーク形成に関する社会学的研究

研究課題名(英文) Sociological Research on Formation of Multi-ethnic Networks of Migrant Entrepreneurs in Used Car Trading

研究代表者

福田 友子 (FUKUDA, Tomoko)

千葉大学・人文社会科学部研究科(系)・助教

研究者番号：40584850

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：中古車貿易は移民企業家が積極的に参入してきたニッチ産業であり、特に日本を起点とする右ハンドル中古車貿易においては、パキスタン人移民企業家が市場を牽引してきたことが知られている。本研究課題では、パキスタン人移民企業家が世界各地に形成した貿易拠点においてしばしば見つけられる、移民企業家の多民族/多国籍ネットワークに注目した。エスニック・ビジネス研究において基本原理とされてきた同胞ネットワークの活用とは様々な点で異なる、多民族/多国籍の移民企業家が連携したビジネス・ネットワーク構築の仕組みを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This sociological research focuses on the formation of multi-ethnic networks of migrant entrepreneurs in used car trading. Pakistani migrants are the major actors in this market, especially in the right handle car trading business from Japan. Used car trading is a typical business conducted by migrant entrepreneurs, not only in Japan (as exporters) but also other countries (as importers or re-exporters). Ethnic ties or ethnic resources are known to be elements of their economic activities in migration studies. By contrast, multi-ethnic networks are not so much mentioned. Not only the former but also the latter have important roles in their businesses. In the case of Pakistani migrants, multi-ethnic ties are used for many purposes. For example, customers, trade partners, workers, clerks, or guarantors. This study aims to clarify how Pakistani migrants use their own ethnic ties and their multi-ethnic networks together or separately in their businesses and their migration processes.

研究分野：社会学

キーワード：社会学 移民研究 中古車貿易 中古部品貿易 多民族ネットワーク パキスタン アラブ首長国連邦  
エスニック・ビジネス

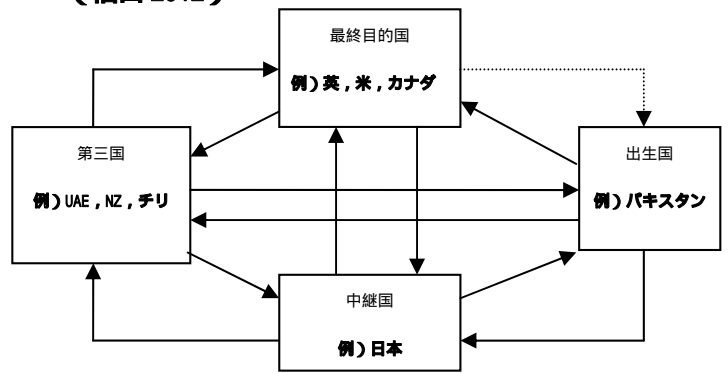
1. 研究開始当初の背景

トランスナショナリズム論は、移民の頻繁な移動によって作り出される越境的な社会領域に注目する研究視角である。1990年代以降の欧米の移民研究においては、トランスナショナリズム論が研究潮流となり ( Glick Schiller et al. 1992, Smith and Guarnizo 1998, Portes et al. 1999 ) , 日本でもその理論が紹介され、また実証研究に応用されてきた。

トランスナショナリズム論は、移民フローと移民ストックの連関を重視する理論として位置づけられるが、1990年代以前にも、そうした帰国 / 永住の図式には当てはまらない移民を論じた研究があった。その1つが「間接移民システム」モデルである。Barrett ( 1976 ) は、1960年代にカリブ地域出身者がイギリスを中継してカナダへ移住する現象を捉え、「間接移民システム」モデル ( 中継国理論とも呼ばれる ) を提示した。このモデルは難民研究の分野で第三国定住の説明図式として応用されたが、一方で閉鎖的システムであるとの批判を受けた上、再移住や再々移住のデータが不足していたこともあり、理論としてそれほど注目されなかった ( 古屋野, 1982:30 ) 。

筆者はパキスタン人移民について調査研究を進める中で、このモデルにトランスナショナリズム論の知見を加え、開放的システムへと若干修正することによって、この分析枠組みが現代移民の分析においても有効であると考えた。特にトランスナショナリズム論では軽視されがちな各国移民政策を、「間接移民システム」発生の重要な要因であると捉えている点は、現代にも通じる重要な視角である。以下の図は、Barrett ( 1976 ) の「間接移民システム」モデルを、筆者が一部修正したものである。この図は、トランスナショナルなネットワークが構築されるメカニズムを説明できる ( 福田 2012 ) 。

図 パキスタン人移民と間接移民システム ( 福田 2012 )



2010 ~ 2011 年度は、研究課題「日本を起点としたパキスタン人移民の間接移民システムに関する社会学的研究」( 課題番号 : 22830020 ) に取り組んだ。その結果、「最終目的国」であるイギリス、アメリカ、カナダでは、大規模かつ成熟したパキスタン人移民コミュニティがすでに形成されているが、他国でパキスタン人移民のニッチ産業となってきた中古車貿易業者が調査対象地域 ( 主に都市部 ) ではまったく確認できなかった。逆に食料雑貨店、ガソリンスタンド、タクシー運転手等、それぞれ特有のニッチ産業が存在することが明らかとなった。一方で「最終目的国」「第三国」「中継国」すべてに共通して見られた事象が、多民族 / 多国籍の移民企業家が連携したビジネス・ネットワーク構築であった。エスニック・ビジネスの先行研究においては同胞ネットワークの活用が基本原理とされてきたが、それとは様々な点で異なる外集団との間に形成された社会関係資本が存在し、独自の役割や機能を果たしてきたと考えられる。この点についてさらに調査研究を深めたいと考え、本研究課題に着手した。

文献 :

Barrett, F. A., 1976, "A Schema for Indirect International Migration", *International Migration Review*, 10(1): 3-11.  
 福田友子, 2012, 『トランスナショナルなパキスタン人移民の社会的世界 移住労働者から移民企業家へ』 福村出版。  
 Glick Schiller et al. 1992, *Towards a Transnational Perspective on Migration*, New York Academy of Science.

古屋野正伍, 1982, 「課題と方法」古屋野正伍編『アジア移民の社会学的研究』アカデミア出版会: 13-44.

Portes, Alejandro et al., 1999, "The Study of Transnationalism," *Ethnic and Racial Studies*, 22(2): 217-37.

Smith, M. P. and Guarnizo L. E. ed., 1998, *Transnationalism from Below*, Transaction.

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、エスニック・ビジネス研究において基本原理とされてきた同胞ネットワークの活用とは様々な点で異なる、多民族/多国籍の移民企業家が連携したビジネス・ネットワーク構築の仕組みを明らかにすることである。この目的を達成するため、今回はエスニック・ビジネスの中から、南アジア系移民企業家の集中が特徴的な中古車貿易業に特化した研究を実施した。

中古車貿易は様々な国籍の移民企業家が積極的に参入してきたニッチ産業である。その中でも特に、日本を起点とする右ハンドル中古車貿易(日本製中古車貿易)においては、パキスタン人移民企業家が市場を牽引してきたことが知られている。パキスタン人をはじめとする移民企業家が世界各地に形成した貿易拠点では、多民族/多国籍ネットワークがしばしば見られる。具体例を挙げると、日本では中古車貿易業者のうちパキスタン人5割、バングラデシュ人1割、スリランカ人が1割と推計されており(2004年調査時)、あまり注目はされていないが外国人業者間の取引は日常的かつ活発に見られる。またアラブ首長国連邦のドバイでは、中古車中継貿易市場の入居業者の役員の国籍を見ると(2005年調査時)、パキスタン人9割、バングラデシュ人3割、アフガニスタン人1割であり、パキスタン人と共同経営する他の国籍の業者も多いことが、先行研究において判明している(福田2012)。

## 3. 研究の方法

本研究では、「中継国」日本での調査研究

の蓄積を基本としつつ、海外調査を複数回実施した。国内調査/海外調査とも、たとえ短期間になっても、できるだけ多くの地域を訪問できるよう工夫した。それによって比較ができ、全体像を把握しやすくなると考えたからである。具体的な調査方法は面接調査を基本とし、現地の経済的/宗教的活動の参与観察、その他関連地域の視察・訪問を随時組み合わせで行った。

「第三国」の中でも、過去に複数回の調査経験のあるアラブ首長国連邦においては、移民企業家の多民族/多国籍ネットワークに注目した継続調査を実施した。また過去に調査経験のないニュージーランドとチリでは、現地の調査協力者との関係を構築しつつ、他国の研究成果と比較分析できるよう、まずは広く浅くデータを収集することに努めた。「最終目的国」イギリス、アメリカ、カナダにおいては、前回調査(いずれも2011年)で中古車貿易業者や中古車販売市場を確認できなかったため、先行研究を元にその社会的背景について改めて検討し、今回は郊外や地方都市を中心に調査した。

研究計画の1年目(2012年度)は、日本国内での調査研究に集中して取り組んだ。また2~4年目も国内での現地調査を継続して実施し、不足するデータを収集・蓄積した。2年目(2013年度)は、「第三国」のニュージーランド、チリの現地調査を行った。3年目(2014年度)は、「最終目的国」のアメリカとカナダ、イギリスの現地調査を行った。4年目(2015年度)は、「第三国」のアラブ首長国連邦の現地調査と研究の総括を行った。また研究期間全体を通じて、文献研究および貿易および人口に関する統計データの収集・分析を進めた。

## 4. 研究成果

研究の結果、パキスタン人移民企業家と他のエスニック集団との取引関係や分業関係を確認することができた。中でもパキスタン

人とアフガニスタン人，バングラデシュ人，スリランカ人，インド人といった南アジア系の協力・分業関係は，いずれの地域においても特に重要視されていた．つまりエスニック・ビジネスの先行研究において基本原理とされる同胞ネットワークの活用だけでなく，外集団（ただし南アジア系という共通点はあるが）との間に形成される社会関係資本がある程度存在し，独自の役割や機能を果たしていることが明らかになった．研究成果については論文，報告書，学会報告等で随時公表してきたが，以下，本研究で得られた知見を改めて整理する．

第1に，パキスタン人の中古車貿易業は中古部品貿易業（自動車解体業を含む）と密接なつながりを持つが，後者のアクターの中にパキスタン人の枠に収まらない人々，たとえばパキスタンとアフガニスタンの二重国籍者が多いことが判明した（論文 福田 2013）．

第2に，リーマン・ショック前後の違いとして，主要な担い手の交代が確認された．たとえば2005年時点で，ドバイの市場を独占していたのはパキスタン人であったが，リーマン・ショック後はパキスタン人企業家が次々と撤退し，相対的に他国籍の企業家の存在感が増した．また同様の傾向は，ニュージーランド（パキスタン人から中国人へ）やチリ（パキスタン人から韓国人へ）でも確認された．

第3に，パキスタン人内部の民族構成の変化である．たとえば2005年時点のドバイ市場では，パキスタン人内部の民族構成に大きな偏りはないといわれていた（福田 2012）．ところが2010年2月，2011年11月時点では，パシュトゥーン人（民族）の大手業者が市場価格を左右するほどの影響を及ぼし始めたことが指摘された（図書 福田編 2013）．さらにその後の2015年11月時点では，その勢力圏の固定化が確認された．

第4に，ドバイやシャルジャの市場ではバ

ングラデシュ人の企業家は少ないが，従業員は多いという点である．ドバイとシャルジャの市場で働くバングラデシュ人従業員には独自のネットワークがあり，経営者の国籍を問わず，さらに市場を越えて，相互に職場を紹介し合う求職ルートが構築されていた．一方，ドバイやシャルジャではスリランカ人の企業家や従業員はきわめて少ない．スリランカ人の場合非ムスリムが多いため，宗教の違いが障壁となってアラブ首長国連邦の市場に参入できなかった（図書 小島編 2014）

第5に，日本のパキスタン人企業家が他の南アジア系外国人と活発に取引する理由のひとつとして，地理的条件が考えられる．一般的に南アジア系外国人は関東圏に集中しているが，パキスタン人が少ない地域では，スリランカ人やバングラデシュ人との協力関係が多い．パキスタン人同業者が少ない分，同国人同士の競合は減るが，その反面取引相手，情報源，協力者なども減る．それをカバーするのが，他の国籍の同業者である（図書 小島編 2014）．

第6に，エスニック・ネットワークの果たす役割の多面性の問題がある．エスニック・ビジネスにおいて，同胞ネットワークは必要不可欠なものであるが，より細かく分析すると，場面によって同胞ネットワークを利用したり，あえて利用しなかったりする．たとえば，公的な登録手続き（フォーマル経済化）はホスト社会側成員に求め，取引情報は同胞に求め，さらに従業員は別の国籍の労働者をあえて雇用する，といったネットワーク（社会関係資本）の使い分けがみられる．これは日本，ニュージーランド，アラブ首長国連邦，チリに共通して見られる傾向であった．

第7に，同じ南アジア系であっても，エスニック集団別にそれぞれ得意な産業が異なることも明らかになってきた．日本のエスニック・ビジネス研究においては，パキスタン人のみならず南アジア系全般の経済活動が

活発であることが知られており、その主要産業は、中古品のリユース・リサイクル産業、ハラール食品産業、インド料理店、国際電話や航空券等の代理店という四類型に分けられる。これらには、エスニック集団別特徴が見られる。たとえばパキスタン人は中古車貿易、アフガニスタン人やスリランカ人は中古部品貿易に多く、ネパール人はインド料理店に集中するのに対し、バングラデシュ人は、に分散する傾向が見られる。ところが、この相違が生じた理由はまだ明らかでない。

これら残された課題については、さらに調査研究を積み重ね、今後明らかにしていきたいと考えている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

福田友子・前田町子・石田沙希, 2016, 「[和文翻訳] エドナ・ポナシチ『ミドルマン・マイノリティ理論』(1973年)」『千葉大学人文社会科学研究』32: 191-208. (査読無)

FUKUDA Tomoko, 2016, "Transnationalism and Pakistani Migrant Entrepreneurs in Japan and the UAE," YOSHIMURA Takayuki & KATSUNUMA Satoshi eds., "Islam and Multiculturalism: Islam in Global Perspective," Organization for Islamic Area Studies, Waseda University: 29-30. (査読無)

福田友子, 2015, 「在日パキスタン人移民のエスニック・ビジネスと越境する親族」『三田社会学』20: 38-51. (査読無)

福田友子, 2015, 「在日ペルー人移民コミュニティの特徴 統計資料の検討を通して」『ラテンアメリカと移民 日本, スペインからの視点』千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書 295: 71-98. (査読無)

浅妻裕・岡本勝規・外川健一・福田友子, 2015, 「自動車解体業の歴史にみる移民企業家の役割について(座談会)」『北海学園大学経済論集』63(1): 41-60. (共著, 査読無)

福田友子, 2014, 「日本に生きるパキスタ

ン人移民の社会適応—1980年代以降の南アジア系外国人排斥政策の流れのなかで」『日本の科学者』49(12): 18-23. (査読有)

福田友子, 2014, 「在日パキスタン人企業家にみるエスニック・ビジネスの実態とその変容—2011年電話調査データを中心に」『千葉大学人文社会科学研究』28: 39-57. (査読無)

福田友子・浅妻裕・藤崎香奈, 2014, 「日本における中古車貿易業の地域別・港湾別特徴」『港湾経済研究』52: 91-103. (査読有)

福田友子, 2013 「中古車貿易における移民企業家の多民族ネットワーク形成」小島道一編『国際リユースと発展途上国』アジア経済研究所調査研究報告書(中間報告): 97-107. (査読無)

福田友子, 2013 「南アジア系ムスリム移民によるハラール食品産業の構築と変容—群馬県伊勢崎市調査を中心に」伊藤眞編『多文化都市と新相互行為圏(NIZ)の形成—新しい「国際移動研究センター」構築にむけた研究』(2010年度-2012年度首都大学東京傾斜的研究費研究成果報告書)首都大学東京社会人類学研究室・「国際移動研究センター」: 51-76. (査読無)

[学会発表](計9件)

Tomoko Fukuda, 2015, "Transnationalism and Pakistani Migrant Entrepreneurs in Japan and UAE," International Conference, "Islam in Global Perspective," Panel IV: Migration and Transnational Social Spaces, November 1, 2015, in New York University Abu Dhabi, Saadiyat Island, Abu Dhabi, U.A.E. (口頭発表, 単独, 招待, 査読無)

岡本勝規・浅妻裕・福田友子, 2015, 「中古車輸出の変遷と現状 阪神港を中心に」日本港湾経済学会, 2015年8月, 大阪商業大学. (口頭発表, 共同, 査読無)

浅妻裕・福田友子, 2015, 「『環境産業』としての静脈産業の発展に関する考察 外国人・移民企業家との関わりに着目して」, 日本環境学会, 2015年6月, 龍谷大学. (口頭発表, 共同, 査読無)

福田友子, 2015, 「国際リユースとエスニック・ビジネス 中古品・中古部品貿易業における南アジア系移民企業家」, 精密工学会ライフサイクルエンジニアリング(LCE)専門委員会公開ワークショップ, 2015年6月, 早稲田大学. (口頭発表, 単独, 招待, 査読無)

福田友子, 2014, 「パキスタン人移民のエスニック・ビジネスと越境する親族」, 三田社会学会, 2014年7月, 慶応大学.

(口頭発表, 単独, 招待, 査読無)  
福田友子, 2013「在日ムスリム移民企業家による集積の問題」, 地域社会学会, 2013年5月, 立命館大学(口頭発表, 単独, 査読無)  
福田友子, 2013「中古車貿易における移民企業家の多民族ネットワーク形成」, 関東社会学会, 2013年6月, 一橋大学(口頭発表, 単独, 査読無)  
福田友子, 2012「日本海沿岸地域におけるパキスタン人企業家の集積」, 地域社会学会, 2012年5月, 慶応義塾大学(口頭発表, 単独, 査読無)  
福田友子, 2012「不況下におけるパキスタン人移民企業家のビジネス戦略」, 関東社会学会, 2012年6月, 帝京大学(口頭発表, 単独, 査読無)

〔図書〕(計8件)

佐藤寛ほか(編), 2015, 『開発社会学を学ぶための60冊 援助と発展を根本から考えよう』明石書店, 担当頁169-171.  
福田友子(編), 2015, 『ラテンアメリカと移民 日本, スペインからの視点』千葉大学大学院人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書295:総頁数99. 担当頁5-9, 71-99.  
小島道一(編), 2014, 『国際リユースと発展途上国』アジア経済研究所, 担当頁133-171.(査読有)  
福田友子(編), 2014, 『国際移動と移民の社会的影響』千葉大学大学院人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書282:総頁数62. 担当頁1-5, 59-62.  
吉原和夫ほか(編), 2013『人の移動事典—日本からアジアへ・アジアから日本へ』丸善出版, 担当頁124-125.  
福田友子(編), 2013『国際的な自動車リユース・リサイクルに関する学際的研究』千葉大学大学院人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書263:総頁数116. 担当頁, 単著1, 91-98, 116, 共著37-38, 48-85.  
樋口直人(編), 2012『日本のエスニック・ビジネス』世界思想社, 担当頁221-250.  
房総日本語ボランティアネットワーク編, 2012, 『千葉における多文化共生のまちづくり』エイデル研究所, 担当頁10-19, 46-53.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等  
千葉大学 研究者情報データベース  
(CURT)

<http://curt.chiba-u.jp/search/ResearcherDetail.aspx?ResNo=2931>

千葉大学 国際教養学部 教員一覧

<http://www.las.chiba-u.jp/teachers/index.html>

千葉大学 大学院人文社会科学研究科  
担当教員一覧

<http://www.shd.chiba-u.jp/index.php?id=39>  
researchmap

<http://researchmap.jp/fukuda-t/Academia.edu>

<https://chiba-u.academia.edu/TomokoFUKUDA>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福田 友子(FUKUDA TOMOKO)  
千葉大学大学院人文社会科学研究科・助教  
研究者番号: 40584850

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし